

# パラソル新聞

<https://www.parasol-gallery.com/>



目次

- 10月パラソルギャラリー開催報告・・・1
- 2022年の活動/ミニパラソル展・・・2
- 2022年の活動/配置図/ポスター・・・3
- アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・4
- 開催写真/北原先生 Q&A・・・・・・・・5

- 学生スタッフの声・・・・・・・・・・・・・・6・7
- 出展作品ご紹介・・・・・・・・・・・・・・8・9
- 特別コラム・・・・・・・・・・・・・・10・11
- お知らせ/編集後記など・・・・・・・・12

## 第21回パラソルギャラリー無事に開催♪

### 3年ぶりの交流を楽しむ 来場者約1万人



↑元 NTT 前歩道の様子=開催日 10月2日

↓同場所、普段の歩道の様子



令和4年 10月1日と2日の10時〜16時に千葉駅前大通り NTT側歩道上に65本のパラソルが並べられた。両日合わせて145名の出展関係者がパラソルのもとに集った。

### 実行委員長から

今年度のパラソルギャラリーは、2年以上も続くコロナ禍の中、有難いことに45組の出展者が集まり、手づくり作品の屋外ギャラリーを開き、賑やかな千葉の都市文化を演出しました。

2日間とも晴天に恵まれ10196人が訪れ、出展者とコミュニケーションを取りながら楽しみました。このように開催できたことは安全安心な開催に向けて、約半年をかけて市民と感染予防対策の検討もあったからだと思っております。

今の千葉駅前大通りはNTT日本千葉支店ビルや三越千葉店の建て替え等、街の風景が大きく変わろうとしています。この中、市民の皆さんとともに、パラソルギャラリーが地域の文化として千葉中心市街地に定着することを心より期待しております。  
(郭東潤)

### 神谷市長 来訪

10月1日 14時30分〜15時00分  
京葉銀行前から中央公園へ向かうルートで全ての作品を鑑賞



7月

- 8日:(コロナ第7波.千葉県 2258人)
- 9日:プレスリリース案。
- 11日:千葉市観光協会 WEB サイトへの  
パラソルギャラリー2022 開催情報掲載
- 15日:パラソル備品点検。
- 17日:運営会議(ZOOM)。配置計画案、設営  
撤収、収支計画案。

8月

- 1日:警備会社と打合せ
- 3日:9月のパラソル会議資料出展者へ送付。  
感染対策県へ確認。
- 4日:(千葉県感染者数1万1千人超、  
BA5 主流)  
千葉県イベント開催制限等確認。
- 5日:オニオン新聞社(株)オニオンワールドに  
パラソルギャラリー2022 開催情報掲載。
- 6日:千葉市と感染対策について情報共有。
- 12日:住友不動産株式会社と千葉駅前大通り  
景観形成推進協議会の協賛が確定。
- 14日:運営会議(ZOOM)。感染予防対策、  
設営撤収作業の流れ、9月会議の資料。  
青葉の森のミニパラソル展中止。
- 15日:2022 ポスターとハガキ印刷入稿。

2022年の活動

1月

- 23日:運営会議(ZOOM)。  
昨年度の経緯説明など。

2月

- 5日:(全国コロナ感染者数10万人超、BA1 主流)
- 23日:運営会議(ZOOM)。  
2022 出展者募集要項等検討。

3月

- 10日:パラソル資材移動。  
(千葉県病床使用率50%以上)
- 13日:運営会議(ZOOM)。  
2021 年度会計報告。  
2022 年度 募集時期および募集方法検討。

4月

- 17日:運営会議(ZOOM)。募集要項最終確認、  
感染対策案、募集案内ハガキ検討。
- 20日:(コロナ感染者数1週間前より減少に転じる)

5月

- 7日:(コロナ感染者数1週間前より増加に転じる、  
BA2 主流)
- 15日:運営会議(ZOOM)。感染対策、募集案内検討。
- 24日:募集案内ハガキ発送。HP 参加募集ページ公開。
- 26日:千葉大学生6名(真次君、長池さん、  
西川さん、肖君、市原君、具志君)  
執行部に参加。

6月

- 1日:(コロナ感染者数1週間前より減少に転じる)
- 14日:本年度出展申込者の書類、学生スタッフによる  
確認と整理終了。
- 19日:運営会議(ZOOM)。2022 出展申込状況報告、  
感染対策と中止判断基準などについて。
- 21日:(千葉県コロナ感染者数417人)
- 26日:パラソル会議(ZOOM)。パラソルギャラリー主旨、  
運営方法、展示手引、感染対策など。

ミニパラソル展



2022年11月12日(土)と2023年1月8日(日)に、青葉の森公園芸術文化ホール前で第16回・第17回ミニパラソル展開催! 八百屋さんも出展。



次回開催 1/8 現在の予定

- 2月12日(日)
- 2月19日(月)
- 10時~16時

安全・安心のための感染対策を行い2022年1月以来の開催になりました。青葉の森公園芸術文化ホールの素敵なイベントとの同時開催です。森の空気の中、イベントを鑑賞したり手づくり作品と共に会話を楽しんだり心安らく時間を過ごせます。ぜひご来場ください。

2022 配置図



10 月

1 日・2 日:パラソルギャラリー開催

朝 8 時集合。

パラソル設置・通行量等調査。

7 日:パラソル新聞への原稿依頼等開始。

11 月

12 日:青葉の森ミニパラソル展開催。

22 日:CHIBA SDGs Parklet Project 実行委員会に、パラソルギャラリー実行委員会連携協力。

12 月

18 日:運営会議(ZOOMと対面で)。

2022 開催を振り返って(出展作品、感染予防対策、パラソル設営撤収作業など)、2023 開催日程について。

18 日:NTT アーバンソリューションズ協賛確定。

アルタ・コミュニケーションズ(株)の  
アミーカサイト、エヌ・アイ・エス「こあじさし」

8 月号と扶桑社(株)『天然生活』9 月 20 日  
発行 VOL.209 にてパラソルギャラリー2022  
開催情報掲載決定。

30 日:市長視察日程決定。

9 月

1 日:パラソル会議資料出展者へ送付。

11 日:パラソル会議(ZOOM)。パラソルギャラリー  
主旨、運営方法、展示手引、感染対策など。

12 日:ポスターを市内周辺 25 カ所へ貼付。

25 日:パラソルギャラリー2022 開催決定  
(コロナ感染者数:東京 5621、千葉 2502 人)

26 日:J:COM「Live ニュース千葉」に 2022  
開催情報およびパラソルギャラリー紹介

29 日:当日の役割分担表最終確認

30 日:YS 市庭コミュニティー財団 採択支援確定!  
実行委員会デザイン部メンバーを中心に  
パラソル設置場所のマーキング、  
パラソル資材搬出物点検作業。



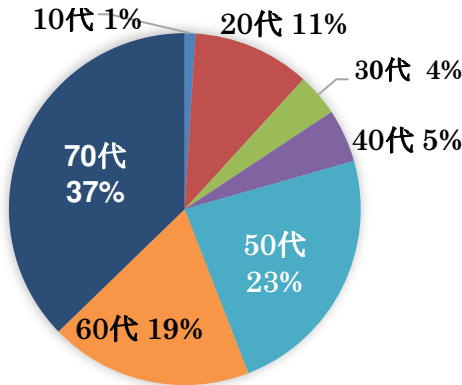
9 月 30 日に点検を行なったパラソル  
資材置き場の様子。

大変蒸し暑い日の作業となった。

## パラソルギャラリー当日のアンケート結果

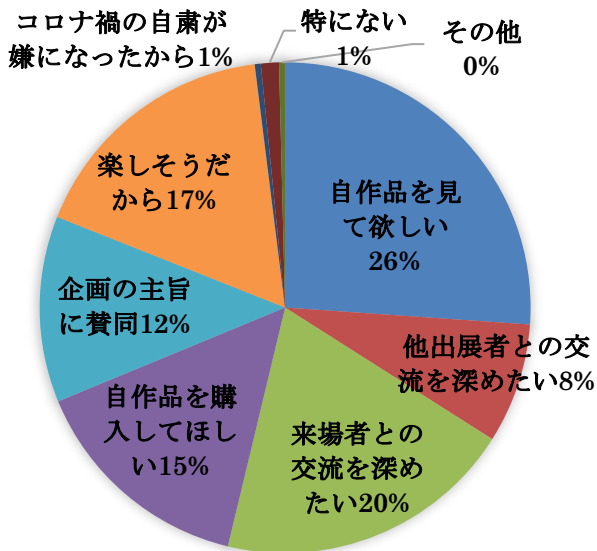
102名(男性25名、女性77名)の出展関係者の方にご協力をいただきました。ありがとうございました。  
アンケートは29問。紙面の都合上、ピックアップして気づいたことをまとめました。

### ◆ 年代別参加者の割合



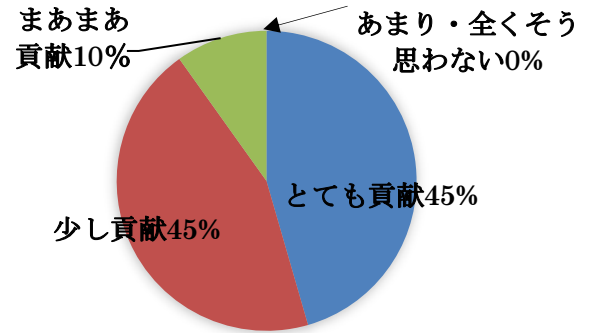
・50代以上が全体の8割を占め、特に70代以上の高齢者の割合が多かった。

### ◆ 出展動機



・出展動機上位3位だった「自作品を見て欲しい」「来場者との交流」「楽しそうだから」を合わせると6割以上になった。

### ◆ 本活動が千葉市都市文化づくりに貢献するか



・何らかの形で貢献すると思う人は100%だった。

### ◆ 趣味の活動回数

・趣味の活動を月に2回以上～毎日行なう人は84%だった。

交流を楽しむ時の作品が日々の生活の中で育まれている。出展者の声や技が地域へと広がり社会還元される可能性と方向性を持つイベントである。

### ◆ 出展によって感じた気持ち

評価	%	評価	%
とても楽しい	43	とても生き甲斐になる	18
やや楽しい	49	やや生き甲斐になる	57
どちらでもない	5	どちらでもない	20
やや退屈	3	あまり生き甲斐にならない	5
とても退屈	0	全く生き甲斐にならない	0

・出展により楽しいと感じた人は92%、生き甲斐になると感じた人も75%だった。

多くの出展者が自らの生き方に適した形で本活動と関わることができている。

### ◆ 千葉駅前大通りの印象

・普段の印象について、つまらないと感じる人が42%、どちらでもないは25%だった。  
・パラソルギャラリー開催時の印象について、楽しい街路づくりになったと感じた人が96%だった。

3年ぶりのパラソルギャラリーにより、魅力ある景観形成とにぎわいを千葉駅前大通りに創出することができたと多くの参加者が感じたことがわかった。さらに高齢の参加者と他者との楽しい接点の場としても本活動は地域社会にとって大切なイベントになっていると考えられた。

## 2022 パラソルギャラリーの様子

### 「小さな仕掛け」によって輝き出した街

パラソルという小さな仕掛けを舞台に、手づくり作品を介して、初めて会う人と、旧知の友人と、あちらこちらで交流が始まりました。

#### A 街に笑顔を！



#### 北原先生 Q & A

Q 北原先生、

パラソルギャラリーを  
続けて行く上で  
何を一番大切にして  
いらっしゃいますか？



笑顔は街を元気にする。街が元  
気になると笑顔が増える。プラス  
の循環が芽生えます。

パラソルギャラリーはケヤキ並  
木の歩道に白いパラソルを並べ、そ  
の下に出展者が手づくり作品を飾  
り、街を市民アートの回廊にする  
イベントです。作品を介して出展  
者と来場者、また出展者どうしの  
交流が生まれ、会話がはずみ、た  
くさんの笑顔がはじけます。

パラソルギャラリーで特に大切  
だと思っているのは「みんなの笑  
顔」です。笑顔が景観に躍動感を  
与え、賑わいを増幅し、街を活性  
化させます。そして何より、みん  
なのモチベーションを高め、持続  
力を生みだします。

2022年10月、待ちに待った  
パラソルギャラリーが3年ぶりに  
開かれ、街に交流と笑顔が戻っ  
てきました。



## 学生スタッフの声

学生スタッフならではの声を聞く場として今年も広報部の西川さんに本ページの担当をお願いしました。

### 「パラソルギャラリーに参加して」

千葉大学 工学部 都市環境システムコース 3年 西川三香子

千葉大学の学生6人(大学院1年生5名と学部3年生1名)が有志で実行委員として参加させていただきました。学生が地域の方と直接関わることでできる貴重な機会をどのように過ごしたか、準備やポスター作成、当日の参加者との交流についてこの場で共有したいと思います。

#### 参加学生について

参加した学生は、大学で都市計画やまちづくり、景観づくりについて学んでいます。まちで暮らす人の生活を考えより輝くようなまちづくりを考えています。

そんな中で、千葉駅前の景観を人が集まりたくなるような魅力的なものにするというまちづくりのイベント、パラソルギャラリーがあると知りました。さらにこのイベントは学生だけでなく、地域の方と一緒に活動できるという機会であり、そのような機会は大学の学びだけでは得られないものなので、ぜひ参加したいと思いました。

#### ポスター作成

ポスターは広報部としての大きな仕事の一つでした。街中にポスターを貼った時、一目でパラソルギャ

ラリーのにぎやかさ、楽しさが伝わるように描くのは、とても難しかったです。この2年は開催ができていなかったのを実際のパラソルギャラリーを見たことがありませんでした。想像だけでは難しいなと思っていましたが、今まで参加していた地域の方が、どのような様子か、どんなイメージかをお話ししてくれたり、皆さんが撮った写真を送ってくれたりしました。そのおかげで、ポスターを通して伝えたいことを見つけ、より良いポスターを描くことができました。

#### パラソル設営

当日、学生も運営スタッフとして参加し、パラソルの設営や受付、参加者の検温などを行いました。パラソルに触れたのは初めてでした。当日の設営では参加者の方のサポートとして居りましたが、設営はとても大変だなと思います。参加者の方は、複数の団体やご家族・友人で出展されている方もいますが、おひとりでお展されている方もいて、そういう



方は設営が大変だなと思いました。学生がお手伝いさせていたのですが、間に合わず苦労されながら設営・片付けをされている方もいたので、これからはもっとスムーズにサポートできるようにしたいと思います。

実際に一列にずらっと並んだパラソルを見た時は、計画の想像していたよりも圧巻の景色が広がっていました。

#### パラソルギャラリーの二日間

とても天気が良く、昼間は暑すぎるほどの日差しでした。



そんな中で学生を気にかけてくださり、飲み物やお菓子を差し入れてくださる参加者の方もいて、とてもうれしかったです。また出展者の方とお話をさせていただいて、出展している作品を記念にくださったりする方もいて、とても素敵な思い出をいただきました。ありがとうございます。

**受付**

受付では、皆さんの体調チェック表やアンケートの回収など忙しく感じましたが、参加者の方が明るく挨拶して話しかけてくださったので、楽しく過ごさせていただきました。

**検温**

参加者の方の検温は1日に2回行いました。いつ行っても、明るく対応して下さる方ばかりで、とてもやりやすかったです。検温だけでなく、作品やご自身のお話、過去のパラソルギャラリーのお話などをしてくださったので、とても楽しかったです。今年の開催を喜んでいる姿が印象的でした。



今年で21回目を迎えたパラソルギャラリーは、市民の方にとって毎年欠かせないものになっているのだなと感じました。また開催中に来場者の方から「来年も来たい」や「来年出展したい」と声をかけていただくことが多くありました。訪れた方の心に残るようなイベントにできたことをとてもうれしく思いました。

**パラソルギャラリーを終えて**

千葉駅前大通りに、今回のパラソルギャラリーのように魅力的で立ち寄りやすい、見に行きたいと思ってもらえるようなイベントがあると、まちが明るくなるのではないかと思います。またパラソルギャラリーは市民の方自身が作ったものを、自身で展示するというものだったので、訪れた人とも話が弾み、楽しく交流している様子が印象的でした。

パラソルが立ち並ぶ様子だけでなく、人々が交流している光景が、まちづくり・景観づくりに必要なものだと実感しました。

**最後に**

今回、パラソルギャラリーに参加

させていただき、まちづくり・景観づくりの大変さと楽しさを実感することができました。大学では、様々な街の活性化について学びました。今まで講義でのみ学んできたものを実際に自分が参加して経験できたことは、これからの自分の成長に大きくつながるものだと感じ

ています。  
今年、開催して下さった実行委員・参加者の方々に深く感謝いたします。  
来年からも千葉駅前に、にぎやかな街並みが広がることを楽しみにしています。



## 出展作品ご紹介

本欄に今年は3名の方からご寄稿頂きました。交流のきっかけをつくり交流を広げる手作りの出展作品は、街を輝かせる大切な担い手です。作品を作るようになったきっかけ、材料、工夫した点、出展への思い等を伺いました。毎回少しずつ皆さまの作品をご紹介したいと思います。作品を見る楽しみが増え交流の輪が広がりますように。

### 着物リメイク

村木照子



そこでそれをリメイクして着たところ、ステキという声に心が舞い踊り作るのが楽しくなりました。

出展して、始めて作品を見た方から、ここをこうした方が良さ等々アドバイスをいただき、それを参考に次を作ります。

出展者の方も、

会社を退職し、時間はたっぷり、ウオーキング三昧、何かスッキリしない毎日。そこへ、もと同僚から着物のリメイクを誘われました。上手でないから・と断っていましたが、母と叔母の着物がどっさり。捨てるのももったいなく家の中で右に片付けたりに左に置いたり、ついにジヤマになりました。

見に来て頂く人も本当にフレンドリー。作品以外の事でも話がはずみ、時間はあっという間に過ぎます。その方達とは今も連絡を取り合っています。コロナでお休みがあり今回で3回目です。

次回から「クローバーズ」という名前で誘ってくれた方々と参加します。

## 陶磁器作品 もりねこ陶房

### 一、作品について

可愛い癒し系の猫、不気味可愛い系のモンスターなどの陶磁器作品を制作しています。家では二匹の猫を飼っていることもあり、猫を中心に制作していましたが、よりユニークな作品を加えたくてモンスター系を追加しました。

今のところ造形物は猫系では、招き猫、箸置き、輪ゴム掛け、プランターペット、ブローチなど。モンスター系では、植木鉢、ペン立て、アクセサリー置き、ミニ花器などです。制作工程は、手びねりまたは簡易

型での造形、乾燥、素焼き後に釉掛け、本焼きとなり、電気窯での素焼きでは約700度で約1日、本焼きは1240度前後で約2日で完成となります。

こだわった点、工夫している点の一つは、モンスターの歯や爪でしょうか。土に本体とは異なる半磁器土を使用し歯や爪の質感を高め、より不気味可愛い感を引き出すようにしています。また、猫の箸置きについては、黒土を黒目として埋め込み、表情を豊かにする様にしています。

### 二、パラソルギャラリーに出展して楽しかったこと

ギャラリーの方に「面白い!」「ツボにハマった」と喜んでもらえた時。また作品を購入して頂いたり、リピートして頂いた時などです。





布ぞうり 野田忠夫

一、ぞうり作りのきっかけ等

・屋外の趣味はいくつかあったので、定年退職後に室内で出来る趣味があったらと思っていた時に、妻が「ぞうり教室」に行くというので、一緒に受講しました(平成19・20年に計3回受講)。

・パラソルギャラリーには、近隣の出展者からの紹介で、2011年に初出展しました。2022年は、ちよ



うど10回目になります。市民との共同運営に移行したこと、パラソル100本以上の大規模開催、開催中に天候の急変により出展場所を千葉駅地下歩道に移動して継続開催したこと、が印象に残っています。

二、布ぞうりの使用材料

・布地は全て木綿。ぞうり台の芯は



道具と材料



ぞうり台と鼻緒

・生地は全て木綿。ぞうり台の芯は

四、楽しんで

を太くし、柔らかくし、履き心地の良さを追求しました。

・生地を丸い紐状になるように巻きながら編んでいます。ぞうりの台部分の生地は、相当な力を入れて硬く織り、足裏の刺激・肌触りの良さと丈夫さを追求しました。特に、鼻緒

を太くし、柔らかくし、履き心地の良さを追求しました。

三、工夫したこと

・生地の結び目がなるべく目立たないように、生地の厚さを同程度の厚さに統一し、生地を重ねて織り込みました。



ぞうり台は、平たい生地を巻きながら編みます。

・生地の結び目がなるべく目立たないように、生地の厚さを同程度の厚さに統一し、生地を重ねて織り込みました。

PPロープ、鼻緒芯はMSテープを使用。6センチ幅の生地を約10メートルで23センチ位の台が片方できますが、11メートル位使用して、固く締めております。

ハガキは、5枚100円で希望者が購入。28名の希望者があり、購入希望枚数は、合計440枚だった。売上金は、実行委員会の活動費へ。



2022 ハガキお知らせ



ハガキ宛名面

パラソルギャラリー デザインコード

(都市景観を良くするための展示方法の手引き)に従って、全出展者が協力し出展。

出展手続き:

これまで通り下記のように行われた。

- ①応募資格、応募要項を確認。
- ②出展申込書等を郵送。
- ③入金(銀行振込)(6/1-12)。
- ④入金確認後に申込終了。
- ⑤6月と9月のパラソル会議に出席し、10月出展。

その他を小生が担当する分業体制で製作しており、普段あまりない会話の機会を持てるチャンスがあります。

・生地の組合せにより、どんなぞうりが出来るのか、出来栄えが良くも悪くも楽しい。

ポスターの掲示

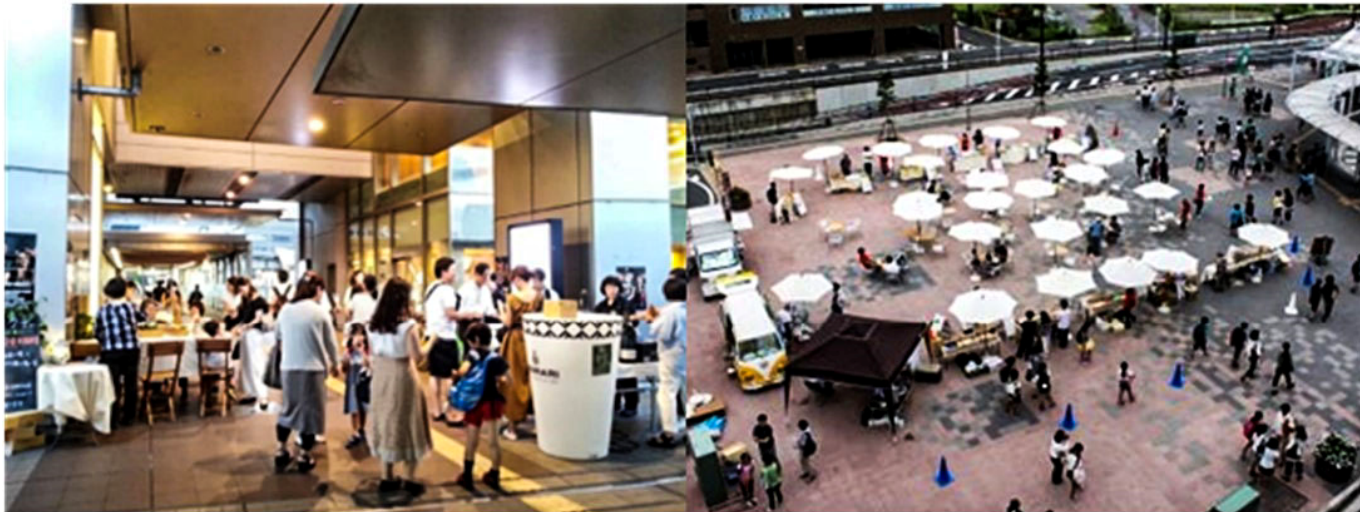
A2 看板用2枚、A3 ポスター80部を印刷。千葉駅前開催場所沿道の店舗・商店街・千葉駅前大通り景観形成推進協議会・小学校・公民館・千葉大学・出展者の居住区域・勤務先などに手分けして掲示した。

ポスターの掲示にご協力いただきましてありがとうございました!

特別  
コラム

千葉市内では様々なまちづくり活動が行なわれています。今回は千葉大学の都市計画研究室でまちづくりを学んだ卒業生の浅野さんに、千葉市の職員として長年取り組んでいらっしゃる千葉西エリアでの公共空間を活用したまちづくり活動について紹介していただきました。パラソルギャラリーとは異なる「リノベーションまちづくり」です。

「リノベーションまちづくり紹介」 千葉市都市整備課 浅野正裕



はじめはここから

いつの頃からか、だんだん元気がなくなってきたと言われる「千葉駅エリア」。

2013 年度、千葉駅西口に再開発ビル「ウェストリオ」が完成し、まちが再び動き出したのを機に、この千葉駅「西エリア」から千葉駅エリアを変えようと立ち上がったメンバーが、ビルの軒先や通路、駅前広場などの民・官のパブリックスペースを舞台に、まちにあふれている「宝」を紹介する様々な取り組みを始めました(※)。

これが千葉市での「リノベーションまちづくり」のはじまりです。

「千葉西口マルシェ」などのイベントに加え、雨の日も風の日も笑顔を絶やさず出店するサンドイッチ屋さんのワゴンなどの小さな取り組みの積み重ねが、新たな関係性と取り組みを生み出し、少しずつこのまちでの「日常」の暮らしの光景を変え始めています。

さらに、2019 年度からは、西エリアの中でも「裏チバ」エリア(新宿・新田町・新町周辺)を主な舞台とした実践型スクール「リノベーションスクール」を開催、「裏ちばみんなのひろばミッケ」(民間所有の空きガレージが舞台)や「うらにわ」(ポートスクエアと裏チバをつなぐ「さぎなみ橋」のたもとが舞台)などのプロジェクトのほか、取り組みの起源である西口駅前での実践メンバーやプロジェクトとの交流・連携が進み、点から線へ、線から面へ、西エリアが変わってきた兆しが表れ始めています。

※:千葉市におけるパブリックスペースの活用を通したまちの再生は、パラソルギャラリーが大きな契機となっており、西口の取り組みもその流れを汲んでいます。



### リノベーションまちづくりとは？

何もないと思っている「いつものまち」。そんなまちにも、味わいのあるキャラを持つあの人、眠っている空き家やオープンスペースなどの出番を待つ空間、ある時間帯しか見られない景色・・・普段は気がつかないところにもたくさんの「宝」があふれています。

これらの宝を活かして、「自分」が欲しい暮らしを「自分」でつくる・・・ひとりの小さな取り組みが周りの気持ちを動かし、共感の輪を広げ、身のまわりの課題も解決していく。さらにそれが連鎖し、「まち」を変えていく。それが「リノベーションまちづくり」です。

ここでは、これまで関心すら持たなかった身近なまちの魅力に気づき、「大きなまち」ではなく「選ばれるまち」を目指し、補助金や「誰か」を頼るのではなく、自らが実践する「当事者」を育む動きがより一層加速していくのです。

北九州市小倉魚町で始まったこのムーブメントは、2022 年現在、海外も含め 90 都市以上に連鎖し、それぞれのまちの課題や背景をふまえながら展開し、仲間を増やし続けています。

さあ、あなたも一歩ふみ出してみませんか？



開催当日、会場に掲示された感染拡大防止のための看板

### 第21回パラソルギャラリー 感染拡大防止対策

● パラソルギャラリー開催日10月2日(日)の千葉県感染者数は1146人だった。制限無しで開催となったため、感染拡大防止対策をしっかりと行ない安心して楽しめるよう話し合った。

● 対策資料は、①「出展者とスタッフ用の感染予防および感染拡大防止のためお願い」②「当日参加者全員の体調確認チェック表」③「スタッフ用予防対策」④「来場者向けのお願いい用看板」を作成した。さらに、大声を出したり密になりすぎたりしている時のために⑤「注意喚起する看板」も用意したが、幸い使用せずにすんだ。

● 開催当日は、学生スタッフが当日参加者全員の検温を午前と午後に2回行ない、問題の無い人のマスクに確認シールを貼った。半袖で過ごせるほど暑い日だったが、全員常時マスクを着用した。開催中も開催後も具合の悪くなった人の報告は無かった。

お知らせいろいろ

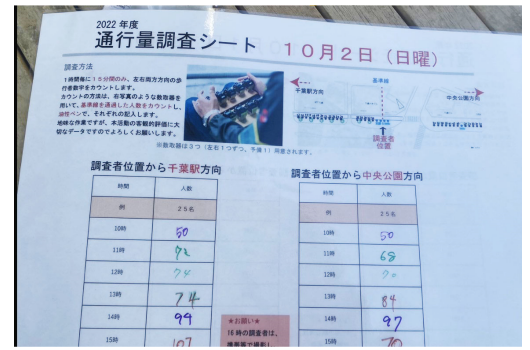
助成金

本活動は2022年度 YS市庭コミュニティ財団から一部支援を受けて実施されました。

郭実行委員長が応募されたYS市庭コミュニティ財団助成が採択され、20万円の支援が決められました。

使用期間は2022年10月1日から1年間となります。第22回パラソルギャラリーの準備期間中に利用できそうです。

通行量調査お疲れさまでした！



通行量は学生スタッフが交代で数えこのシートに書き込みました。

協力団体として CHIBA SDGs のチラシに掲載

京葉銀行を中心とした地元複数団体で構成されている CHIBA SDGs パークレットプロジェクト実行委員会が夏に立ち上がり、主に駅間大通りの京葉銀行付近で活動を展開しています。

3月3日(金)11時30分~20時(雨天中止)にも活動が予定されており、パラソルギャラリー実行委員会が協力団体としてチラシに掲載されます。

今後、駅前大通りの賑わい創出に向けて相互に協力できる可能性が期待されます。

求む 作品紹介欄に掲載原稿

あなたの出展作品について教えてください。工夫したところ、特に見てほしいところなどなんでも。お待ちしております。

連絡先:

[parasolkouen@gmail.com](mailto:parasolkouen@gmail.com)



建築計画のお知らせ

敷地の地名地番		千葉市中央区富士見一丁目12番2-1部		
名称	ネクストサイト千葉ビル新築工事			
用途	事務所、飲食店、駐車場	住戸数	0戸	
敷地面積	2446.38㎡	棟数	2棟	
建築面積	1762.19㎡	階数	地上12階 地下1階	
延べ面積	20,687.19㎡	高さ	57.8m	56.83m
構造	S造一部RC造・RC造 S造一部RC造	基礎工法	杭基礎	
着工予定	2022年10月1日	完了予定	2024年8月31日	

現在工事中の元 NTT ビル一階にカフェが入る予定との情報が入りました。完成予定は建築計画のお知らせによると、2024年の8月末日。パラソルギャラリーをカフェの前で開催する日が楽しみです。

謝辞

大きく変化する千葉駅周辺に視野を広げ、千葉の新たなまちづくり活動の紹介を千葉市にお願いしました。千葉西エリアで行なわれている取組み全体の流れについてご多忙の中、市役所の視点から貴重なご執筆を頂きました。

・住友不動産株式会社、千葉駅前大通り景観形成推進協議会、NTT アーバンソリューションズ総合研究所、パラソルギャラリー後援会からご支援を賜りました。

・待ち望んでいた皆さまの気持ちが伝わってくるような交流場面の写真は北原理雄顧問の撮影です。

ご協力・ご支援に心から感謝申し上げます。

パラソルギャラリー実行委員会一同

後援会から

後援会は、パラソルギャラリーの継続的開催を支えたい人で構成される会です。会員の皆さまには後援会費をお願いしています。個人の寄付金窓口にもなっています。

後援会費は、パラソルギャラリー開催のための資金源2本柱のうちの重要な1本の柱です。

今年度はパラソルギャラリーを開催したので年会費のお振込みをお願いしました。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

連絡先/払込先 :

[parasolkouen@gmail.com](mailto:parasolkouen@gmail.com)

三菱東京UFJ銀行千葉支店 普通口座 1986152



編集後記

コロナ禍が終息しない中での開催にも関わらず、3年ぶりとは思えない楽しい交流が行なわれたことが印象に残りました。慎重かつアクティブに準備したスタッフの活動を記録し来年度に生かしたら、また日々の生活の中で生まれる手作り作品への想いをご紹介できたら、などと思いながら新聞を作成しました。22回目も元気にお会いしましょう。

(広報部・副実行委員長 奥平純子)